

「山口県立学校施設長寿命化計画」の概要

1 背景・目的等

- 学校施設は昭和40年代から50年代にかけて整備された建物が多数を占め、今後10年間で一斉に更新時期を迎える
- 厳しい財政状況の中、今後の施設整備費の抑制・平準化を実現しながら学校施設に求められる機能を確保する
- 中長期的な維持管理等に係るトータルコスト縮減と予算の平準化を図るための整備方針を示す

【位置付け】

- 「山口県公共施設等マネジメント基本方針」において策定するものとされた県立学校の施設整備の方針
- 文部科学省は「インフラ長寿命化計画」を策定し、各地方公共団体に対して令和2年度末までに「学校施設の長寿命化計画」（個別施設計画）を策定するよう要請

【対象施設】

- 県が所管する中学校・中等教育学校・高等学校・総合支援学校

【計画期間】

- 令和3年度（2021年度）～令和12年度（2030年度）

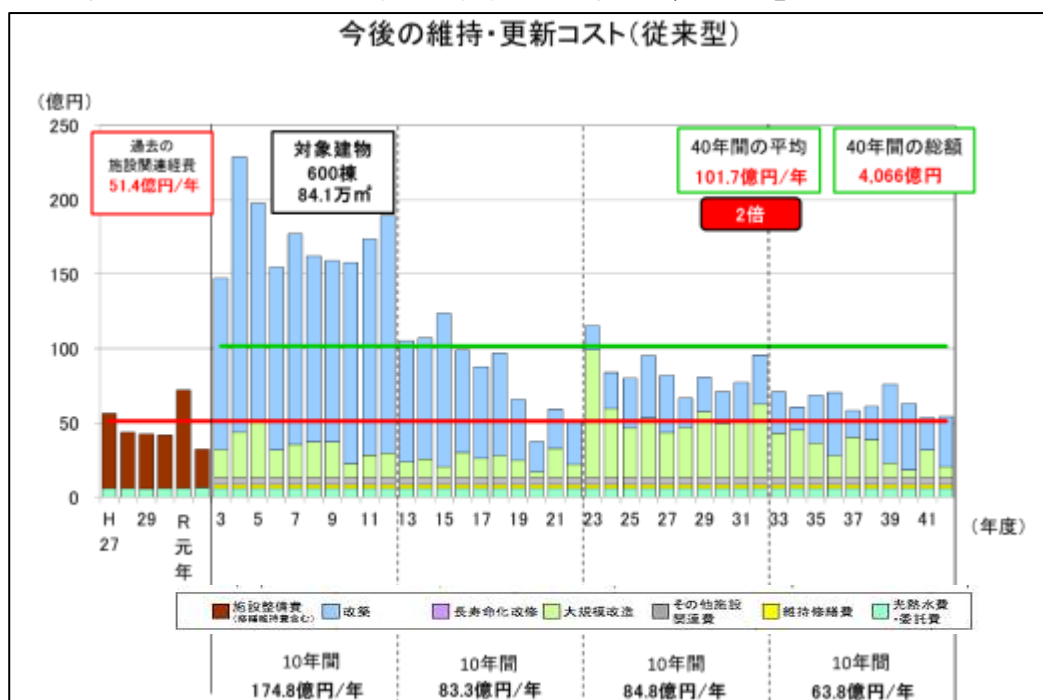
2 学校施設の実態

【学校施設の整備状況】

- 対象建物 600棟 84.1万㎡
- 築30年以上 470棟（78%）うち築50年以上 136棟（23%）

【今後の維持更新コスト試算（従来型）】

- 築50年を目途に建替えた場合は今後40年で4,066億円



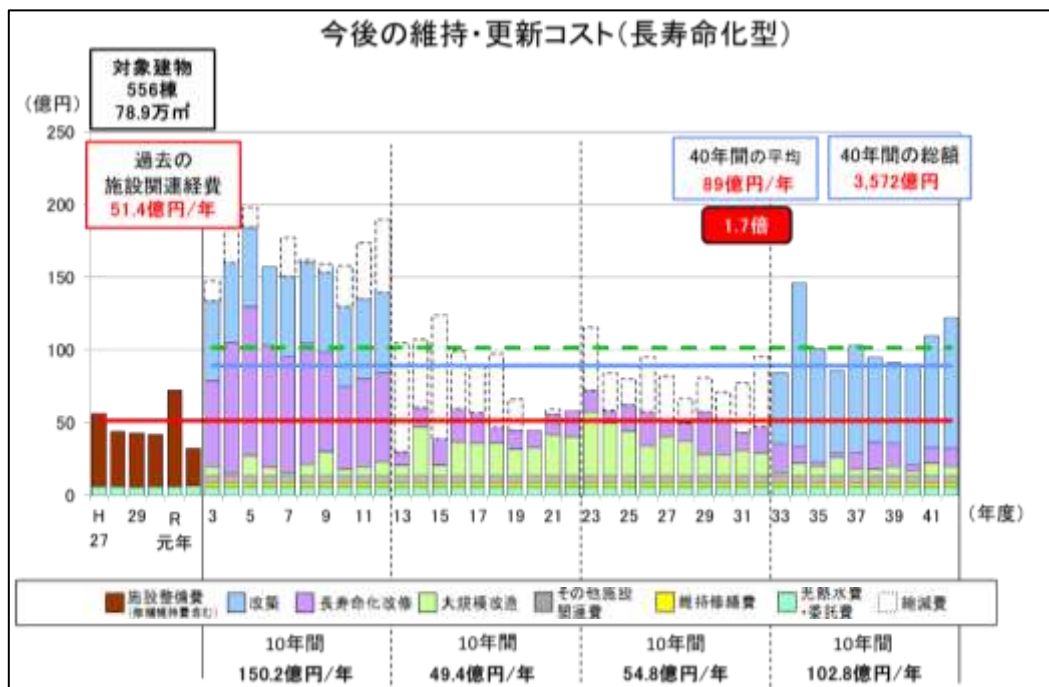
3 整備方針

(1) 建物の長期使用と長寿命化改修

- 適切なタイミングで改修（築20年で中規模改修、築40年で大規模改修）を行い、建物の目標使用年数を80年とする

【今後の維持更新コスト試算（長寿命化型）】

- 今後40年間で3,572億円（△494億円）



(2) 生徒数に応じた施設数や建物規模

【高等学校】

- 生徒数の減少が続く見込みであり、適正な施設数や規模を検討

【総合支援学校】

- 引き続き教室不足解消に向けた整備に取り組む

4 今後の整備計画（令和3年度～令和12年度）

(1) 改築

- 築50年を超える校舎等を多く保有する学校を整備対象校として検討

(2) 長寿命化改修

- 基本的に築年数を基準として優先度を検討

5 計画の継続的運用方針

(1) 推進体制の整備と情報の活用

- 学校、営繕部局と連携した整備を推進
- 施設の定期的な点検・診断を着実に実施

(2) 県立高校将来構想を踏まえた計画の見直し

- 今後15年間で中学校卒業見込者数はさらに約3,000人減少する見込み

⇒ 今後策定する「県立高校将来構想」を踏まえ、適正な施設数、建物規模を検討